



2005年5月31日

日本応用心理学会ニュースレター

—コミュニケーションの広場—

No. 12

日本応用心理学会第72回大会に向けて

大会準備委員長 星野 仁彦

先にお知らせしたように、第72回大会（9月3日、4日）は福島学院大学でお引き受けすることになりました。本学会で長年理事をしている玉井寛学科長・教授と私、星野仁彦が中心となり、大学全体として学会の準備に取り組んでおります。本大会のテーマは「地域福祉に果たす応用心理学の役割」と謳っています。平成15年に開学したばかりの当福祉心理学科において目指しているのは「メンタルケアのできる福祉士」ですので、教員にとっても、また学生にとっても本学会が有する意義は大きいと思われれます。

さて、福島県はさまざまな意味で福祉の後進県ですが、その中でも特に遅れているのは児童のメンタルケアと児童福祉の分野です。当大学（当時短大）が附属施設として平成13年にメンタルヘルスセンターを立ち上げ、さまざまな子どもの心の問題—ADHD（注意欠陥・多動性障害）、LD（学習障害）、自閉症、不登校、うつ病、心身症、被虐待児童候群など—のカウンセリングと家族指導、教師や保育士との相談を行っているのも、地域のニーズに応えるためでした。現在は心療内科医（精神科医）1名、臨床心理士4名、精神保健福祉士1名がカウンセリングと相談にあたっていますが、今や県内外から年間4,000人以上のケースが来所しています。当初はこれほど“繁盛”するとは思っていませんでしたが、やはり潜在的なニーズはかなり高かったのでしょう。

メンタルヘルスセンターの所長は臨床心理学専攻の安田道子教授ですが、彼女を中心として第72回大会のシンポジウムのテーマとして考えているのがADHD、LD、アスペルガー症候群などの軽度発達障害です。近年教育、心理、福祉の現場で落ちつきのない子、キレやすい子、孤立しやすい子がクローズ



アップされていますが、発達障害を専門とする医師である私からみて、次の三つがその理由として挙げられます。1番目は有病率（発症率）がかなり高いことです。例えば文科省の統計ではADHD、LDは普通学級に6%程度存在します。2番目の理由は、軽度であるためほとんど親にも教師にも気づかれないまま普通学級に在籍して、普通の子どもとして学業、規律などを要求されるわけです。3番目に前思春期（9～11歳）以降になるとセルフイメージが低下して、劣等感、疎外感、無力感などを抱いて高率に不登校、非行、性非行、心身症、うつ状態などを示すことです。

第72回大会のシンポジウムでは発達障害の現状について、また応用心理士としてどう対応すべきかについて活発なディスカッションを期待しております。（福島学院大学教授）

第72回大会参加・研究発表申込み 締切日の延長について

先にお知らせしました「第72回大会参加・研究発表申込み」の締切日を、下記の通り延長いたします。まだ、申込みを済まされていない会員の皆様のお申込みをお待ちしています。

1. 研究発表申込み 郵送の場合 6月13日（月）当日消印有効
WEBで申し込む場合 6月15日（水）

「大会参加・研究発表申込書」（はがき）に必要な事項をもれなく記入の上、50円切手を貼って、ご投函ください。

2. 大会参加（予約） 郵送・WEBの場合とも 6月30日（木）まで

「大会参加・研究発表申込書」（はがき）に必要な事項をもれなく記入の上、50円切手を貼って、ご投函ください。

なお、諸費用は、「大会参加・研究発表申込」締め切り後にお送りする振込用紙（請求書）を用いてお振込みください。

認定「応用心理士」認定審査委員会 からのお知らせ

委員長 馬場 房子

日本応用心理学会認定「応用心理士」認定審査委員会は、平成16年度後期分の資格認定審査を行った結果、以下の5名の方々を認定いたしました。

- 237 村井 康二
- 238 望月 雅和
- 239 川口 真理
- 240 中島 獺

241 中川 高

なお、平成17年度前期分の受付は、平成17年4月1日(金)から5月31日(火)までですが、今年度に限り6月30日(木)までとします。資格要件を有しながら、まだ認定「応用心理士」の資格を取得されていない方は、申請手続きをしてください。

手続きの詳細につきましては、「資格申請の手引き」第4版をご覧ください。また、何かご質問がありましたら、応用心理士事務局のほうにお問い合わせください。

(亜細亜大学経営学部教授)

研修委員会からのお知らせ

委員長 林 潔

2005年度の研修会は、福島学院大学における大会期間中に行われます。

研修会講師は、今回は共に名誉会員の福原真知子先生、大久保康彦先生がご担当頂きます。福原先生は日本にマイクロカウンセリングを導入された方として知られております。マイクロカウンセリングは

折衷的カウンセリングの一つです。また、大久保先生はまだ病院における心理臨床が確立されていない時代に、この領域に道を開いていかれた、わが国の心理臨床の先駆者のお一人です。

日程、演題につきましては、大会校よりの案内をご覧くださいますように。また、カウンセリング、心理療法に関心をお持ちの会員外の方々や、学生さんにもお知らせ頂ければ幸いです。

(白梅学園短期大学名誉教授)

シンポジウム委員会からのご報告

委員長 松浦 常夫

平成16年度の公開シンポジウムが、昨年のクリスマスに国土館大学で開催されました。年末の忙しい時期にもかかわらず、多数の人々に参加していただき、ありがとうございました。今回のテーマは、「高齢時代の健康とスポーツ」ということで、高齢者と健康、老年学の地域への貢献、生涯教育としてのスポーツの役割、および行政サイドの高齢者向けスポーツ振興政策についての発表がありました。高齢者問題は応用心理学でも取り上げられることが多くなりましたが、今回の話題は老年心理学、健康心理学、スポーツ心理学等の応用分野で研究が進展してきている分野でした。国土館大学の所教授の司会のもと、熱心な発表と活発なフロアからの意見が出



て、時間を少し延長したお開きとなりました。この公開シンポジウムは例年、秋か冬に1回開催されるものです。17年度の公開シンポジウムもよろしくご参加のほどをお願いいたします。

(実践女子大学教授)

研究室紹介

実践女子大学人間工学研究室について

垣本 由紀子

実践女子大学は、1899年、歌人として、また、女子教育の先駆者として名高い下田歌子によって創設され、106年の歴史を有している。創設当初から「社会に役立つ学問」を目指し、実学を志向していたと言われている。創設に先立って行われた2年間の欧米教育視察と留学が教育思想に大きく影響したと推測されている。人間工学は学際的であるとともに、実践的な科学であることを考えると、歌子先生が100年前にすでに人間工学的発想をもっておられたことにその慧眼の凄さを感じるところである。

人間工学研究室は、生活科学部生活環境学科の中の一つの研究室である。生活科学部は、約10年前の改組により家政学部から生活科学へ、そして生活環境学科は被服学科から生活環境学科へと改組した。どこの大学もそうであるように、本学も生き残りをかけ生活環境を広くとらえようと大きく変身した。生活環境は大きく分けると、衣・食・住ということになるが、食は食物科学科が別にあるため、ここでは住・インテリア環境と被服・アパレル環境を目指すことになる。さらに、両コースに共通するものは何かというと「人間」である。そこで、「人間」を研究対象とする人間工学や生理人類学の人間関連の研究室が存在している。ほかに、共通項として「材料」関連の研究室が存在している。

人間工学と応用心理学との関連についてであるが、人間工学は、もともときわめて学際的であり、学会員の構成を見ても医学、心理学、生理学、電気、機械工学、土木、建築、工業デザイン、被服、情報等々と多様である。すでに知られているように、アメリカにおいて、第2次大戦中に多発する航空事故の原因を解明するために、航空工学者、次いで心理学者が集められ、事故原因を分析した結果、読みにくい計器が原因であることが初めて判明した。「使にくいもの」、「見にくいもの」は、「見やすいモノ」に変えればよい」という発想がここに出てきたわけであり、人間工学の始まりである。人間工学は、応用心理学の中の産業心理学領域の一つととらえられていた。もっともヨーロッパでは、アメリカとは異なり、炭坑従事者の労働環境をいかに改善するかという労働衛生的な課題からスタートしている。両者に共通することは、人とモノ・環境との関わりの中

で、あくまでも人間を中心として効率性、快適性、安全性を追求し、生活の質を向上させることであるが、それは、応用心理学の目指すこととも共通すると考えられる。

本人間工学研究室は、人間のパフォーマンスを中心課題に据え、パフォーマンスに影響を与える各種要因について研究を進めていこうとしている。しかし、人間工学学科ではないため、また心理学科ではないため。学生が選択できる科目も限定され、学生の枠があいまいであるという問題も存在する。

就任後5年が経つが、その間の卒論の主たるテーマをみるとどのようなことを進めてきたかご理解頂けると思う。なお、今までは卒論は選択であったが、2004年度入学生から必須となった。

交通関係:

- ・高齢ドライバーに関する研究
日常の利用実態、運転断念のきっかけについて等
- ・自動二輪車の事故と右回り左回り特性について
- ・女性ドライバーに関する調査
- ・車同士のコミュニケーションに関する調査

人間特性について;

- ・利き手の特性に関する実験的研究
- ・疲労に関する研究—断眠とパフォーマンス—
断眠中の過ごし方が翌日の疲労に与える影響—

マン・マシンインターフェースと生体負担;

- ・作業台の高さが家事負担に及ぼす影響
- ・洗面ボールの大きさと洗いやすさの評価
- ・女子大生のカバンの重さと生体負担

テーマは、きわめて日常的な事柄から人間工学的問題を見つけ、科学的な方法でアプローチしているといったところである。

学生の間では住居・インテリアの志向がきわめて高いのが昨今の状況であるが、「人間」を中心に勉強したい学生も多々おり毎年研究室もそこそこにぎわっている。

残念なことは、大学院に進む学生が少なく、せっかく出かけた研究の芽が育たないことである。

人間工学といってもまだ十分人口に膺炙しているとはいえない。しかし、日常的にはマン・マシンシ

STEMの齟齬、またはマン・マンとの齟齬から痛ましい事故が発生し、人間工学的発想の必要性が求められている。「人間工学」「生活人間工学演習」「実験

心理学」「感性工学」等を担当しながら、日々格闘しているところである。

(実践女子大学教授)

【訃報】

名誉会員の田中熊次郎先生が、平成16年12月22日にお亡くなりになりました。ここに謹んでお悔やみを申し上げますとともに、生前の本学会に対するご尽力に感謝申し上げます。

【事務局だより】

下記に記載した会員の住所が不明であり、郵便物が届かない状況です。これらの方の住所をご存知の方がおりましたら、事務局(電話: 03-5389-6491 FAX: 03-3368-2822 e-mail: jaap-post@bunken.co.jp)までお知らせください。

日本応用心理学会住所不明者リスト

浅野智子、芦澤志帆子、雨宮一洋、雨森雅哉、安藤寿枝子、井上寛之、伊吹山太郎、岩崎祥一、上田豊樹、内田尚宏、梅崎利香、遠藤さと子、大内隆、大西孝周、大溝憲久、小倉直子、小島ひとみ、加藤かおり、金子秀彬、金地美知彦、川地亜弥子、川畑実和、木村基宏、斉藤早香枝、佐伯勝幸、笹田哲、澤田和美、塩味香里、薛常慧、菅沼澄江、杉村正子、高橋晃、高向俊江、竹内妙子、竹内由則、武田繁好、塚本尚子、月野木竜也、佃未音、椿堂由紀、出水真寿美、中川知宏、中里茂、中島寛之、中村由希子、南篠充寿、萩原朋子、橋本健次郎、蓮見知恵子、服部敬子、林幸範、布施晶子、古川ひとみ、保坂里英、増田公男、増田真也、松尾千尋、松川亜弥子、三浦麻子、宮原道子、森脇保彦、山崎晴美、山崎麻里、山本美代子、山本恵一、吉田恒彦、吉村佐紀恵、若松優子、植田忍、和田有史、渡部桂子、渡邊正人

日本応用心理学会認定「応用心理士」事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-8-1
東京富士大学 応用心理学研究室内
FAX 03-5386-2451

発行 日本応用心理学会広報委員会
日本応用心理学会事務局
〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-4-19
(株)国際文献印刷社内
電話 03-5389-6491 FAX 03-3368-2822

目次

日本応用心理学会第72回大会に向けて		研修委員会からのお知らせ	林 潔	2
.....星野 仁彦	1	シンポジウム委員会からのご報告	松浦 常夫	2
認定「応用心理士」認定審査委員会からのお知らせ		研究室紹介(実践女子大学人間工学研究室)		
.....馬場 房子	2垣本由紀子		3